TOPICS

北東炭搬出港、来年末に完工 世界最大の積み込み機を設置

日本の鉄鋼業界は一昨年一月、ブリティッシュ・コロンビア州北東部の原料炭を年間六百五十万トン開発輸入する契約を締結したが、その積み出し港として計画されていた、カイエン島北端のプリンス・ルパート港の建設は予定通り、来年十一月には完工する見込みだという。

このほどプリンス・ルパート港湾ミッションの団長として訪加した福山宏日本鋼管原料部輸送計画室長によると、バンクーバーの西北約八百キロのところにあるプリンス・ルパートで建設中の港湾は、日本が配船を予定している二十五万トン級の鉱炭船をも十分受け入れられるように設計されており、また船積み能力毎時四千トンという世界最大のローダー（積み込み機）が二基も予定されている。BC州北東部で採掘された石炭は、九十八両編成の貨物列車で同港に運ばれるが、ストックヤードは一面七百メートル×六十八メートルのものが四面あり、百三十六万トン程度まで在庫できるという。

プリンス・ルパート港は、年間千二百万トンの扱い能力をもつ港湾として建設されている。海峡もなく、霧や波による影響も少ない天然の良港で、しかも日加間の輸送時間もこれまでのロバーツバンク港に比べて往復で二日間短縮できる利点をもっている。（「鉄鋼新聞」より）

B・C州沖に石化製品の輸出港

ブリティッシュ・コロンビア州、アルバータ州、連邦政府の三者は、このほどBC州北部に太平洋圏向け石油化学製品の輸出ターミナルを新設することで合意した。

協定によると、ターミナルはカイエン島かリドリー島に置かれ、八四年に稼動開始の予定。

リドリー島には、ほかに石炭と穀物の輸出ターミナルも予定されており、これらが実現すれば、太平洋圏との貿易は今後一層便利になる。

BC州北部に新設される太平洋圏向け輸出港

マラソンで日加姉妹提携 男女優秀選手を相互派遣

河口湖日刊スポーツ・マラソンとカナダ最大の市民マラソン大会・バンクーバー国際マラソンが、姉妹マラソンの提携関係を結んだ。

これにより、両大会の男女優秀選手を相互に派遣するとともに、マラソンを通じて両国民の友好と親善を一層高めることになった。

十一月二十三日に河口湖畔で開かれる記念大会（アシックス杯）には、早速、五月二日の第十二回バンクーバー国際マラソン大会の優秀選手男女各一人が招待される。

喫煙者はご遠慮を ホテル客室の一部

オンタリオ州のトロントとキングストンに、客室の一部を非喫煙者専用に当てたホテルが出現した。

キングストンは、カナダが植民地であった頃に首都がおかれたこともある、オンタリオ湖畔の由緒ある町。オールド・フォート・ヘンリーなどの砦跡や古い石造建築といった名所旧跡が多く、有名なサザンアイランド遊覧ボートの発着地でもある。

非喫煙者用の客室を作ったのは、そこに昨年十月完成したラマダ・キングストン。全客室の一割、十五室がノン・スモーカー用として確保されている。

またトロント市の中心部にある一流ホテル、チェルシー・インでも、今年に入って六階の五十室すべてを非喫煙者優先にすることになった。同ホテルでは、ほかの階が満室になったときに限って、喫煙者にも六階を利用させているが、客がチェックアウトしたあと、たばこのにおいが一切残らないよう、特別なクリーニングを行うという。

世界初の電子印刷 カタログ作成に威力

マイクロプロセッサーを組み込んだ電話交換機を製作しているカナダ有数の通信工業会社マイテル社（本社オタワ）は、世界中の顧客に交換機一個を送るたびに八百ページから千四百ページにのぼる部厚い技術資料を添付しなければならない。一九八一年には、その量は合計一千百万ページにのぼった。今年は五千四百万ページに達するものとみられている。

そこで同社が開発したのが世界初の電子出版システム。これは原稿作成から版下作り、印刷、製本まで、図版製作を除いてすべて電子的にやるもので、これによってカタログなどの製作時間が大幅に短縮された。

このシステムでは、コンピューターに組み込まれた辞書を使って英文の資料をフランス語、ドイツ語、スペイン語に翻訳することも可能だという。同社はまた、イラストレーターが直接ビデオ画面に画像を描くシステムの開発に取り組んでおり、これができると現在は手作りしている図版も電子製作されることになる。

マイテル社が開発した電子印刷システム

国内石油産業の発展を奨励 「石油・天然ガス法」を公布

カナダ連邦政府は、三月、国有地――ユーコン、北西両準州と沿海海底――における石油・天然ガス開発に関する「カナダ石油・天然ガス法」を公布した。これは、先に決めた「国家エネルギー政策」を立法化したものである。

同法は、国有地における国内石油・天然ガス産業を発展させるため、次のような優遇策を定めている。

一、すでに生産中の油田・ガス田を除いて、国有地での石油・天然ガス生産量の二五パーセントは、カナダ政府が保持する。

一、国有地で新しく生産される